



## 元気なフランスの退職者たち

すずき  
鈴木

ひろまさ  
宏昌

●早稲田大学・名誉教授

多くのフランスの労働者は早い時期に労働市場から退出し、年金生活者となる。60歳に近づくと、いつ会社の仕事をやめ、時間が自由に使える生活になるのかを楽しみにしている。フランスには、日本のような定年退職の制度はないので、年金が満額支給の年が退職のときとなる。この年金支給開始年齢（法定）は、62歳で、現在65歳となっている近隣のドイツやイギリスと比べて格段に早い。フランスの労働者が実際に仕事をやめ、年金生活者になるのは、平均で62.4歳である（2016年）。この中から、早期退職（年金の加入期間が不足しているので、年金は減額される）を除いても、63.2歳と若い。手軽な指標である55歳から64歳の階層人口の雇用率で日本と比較すると、フランス50.2%、日本72.1%と大きな差になる（2016年、OECD）。フランスでは、62歳を過ぎると、会社などで働き続ける人は例外となる。わが国のサラリーマンの多くが長年勤めた会社を去ることに不安を持ち、後ろ髪を引かれる気持ちで、定年を迎えるのとは対照的である。

なぜ、このようにフランス人は外の仕事から解放されることを願うのだろうか？これには、いくつかの理由が考えられる。

### 1) 年金制度が充実していること

フランスの年金制度はもともと職域ごとに発達した歴史から、一般の民間労働者、公務部門、独

立自営業などといくつもの制度に分かれているが、民間部門の一般的な制度は、1階部分の公的年金と2階部分の補完的年金からなる。この補完部分は、実際には、カードルと呼ばれる管理職層のものと一般従業員のものに分かれている。この2階部分は労使の代表が管理し、独自に保険料率や年金額を決めている。この一般的な制度の上に、大企業などでは3階部分に当たる付加的な給付を持っているところもあるようだ。年金が満額になるためには、年金保険料を41年と半年間払い込むことが条件になる。保険料は、だいたい被雇用者45%、使用者55%の割合で負担し、国庫補助も大きい。2015年末に年金受給者は1,600万人（全人口の約25%）で、平均年金額は月1,376ユーロ（約18万円）だった。従前に働いていたときの給与との比率（代替率）では、満額の場合、60-80%くらいと見積もられ、一般的に給与の低い人ほど代替率が高くなる。また、雇用労働者の2割を占める公務部門の労働者の代替率も高い。つまり、退職しても、それほど所得水準が落ちないことが、多くの人が退職を楽しみに待っている大きな理由だろう。もちろん、仕事をしなかった人や加入期間が短く、少ない年金で生活が苦しい人も相当いるが、最低水準で生活している人は、むしろ失業率の高い現役の世代の方が高い。また、年金生活者は、現役の世代に比べて、多くの資産を有している。



## 2) 高齢労働者のキャリア

フランスでは、教育と職業資格が給与水準を決定する。わが国のサラリーマンのように、長期キャリアの展望があるのは、大学出身の幹部職員とエンジニアに限られる。中級職員あるいは生産労働者は、限られた範囲の昇進と勤続に伴う手当や給与増があるのみで、日本的な意味でのキャリアはあまりない。しかも、高齢労働者は比較的給与が高くなるので、要求される仕事量や責任が多くなる。となると、労働者は仕事のストレスを嫌い、満額あるいはそれに近い年金支給が確保された段階で、よろこんで退職してゆく。

## 3) 労働と生活時間

フランスでは、ヴァカンスは労働者の重要な権利として定着している。一般的に、年次有給休暇は最低30日あるいは6週間だが、管理職は、労働時間短縮時間分（1日の時間管理は難しいので、残業時間をまとめて年休でとる制度）などで、さらに2週間ぐらいが追加される。フランスには、年休消化率の統計がないことが示すように、年休はほぼ100%とる。海や山、あるいは田舎で家族と一緒に生活を楽しむ。このように、年に2、3回まとまったヴァカンス（生活時間）を体験しているので、仕事中心の毎日から年金生活への移行に抵抗が少ないのだろう。

## 4) 市民権を持つ年金生活者

日本では、労働時間の長さや通勤時間があるので、現役の間は、交際範囲が仕事関係に絞られることが多い。労働時間が短く、土日が確実に休めるフランスでは、現役のときから仕事以外の交友関係がある。趣味のクラブの友人、学校時代の友だち、あるいは子供の仲間の両親との付き合いなどである。したがって、年金生活に入り、自分の居所がないという話はほとんど聞かない。

年金生活者としてパリに住みだして6年が過ぎたが、友人たちをみていると、実に元気で、忙しい。学校の夏休みや冬休みになると、何人もいる孫の世話で忙しい（フランスは出生率が高いので、子供も多い）。あるいは、旅行やハイキングを楽しむ人もいる。普段は、ジムに通ったり、地元の様々なクラブ活動に参加したり、会食したりで、生活を楽しんでいる。概して、年金生活者の方が、現在の生活に満足している。現役の世代が、大体フランスの将来に悲観的なのは対照的である。

趣味が少ない私は、元気なフランスの友人たちを半分羨ましいと思う気持ちがあるが、半分、フランスの現行年金制度が財政的に将来持つのかなという不安を持っている。これは、日本からの年金に頼って生活している私の僻みなのだろうか？

パリ郊外にて。